

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 16 年 11 月 25 日 (2004.11.25)

【公表番号】特表 2001-503087(P2001-503087A)

【公表日】平成 13 年 3 月 6 日 (2001.3.6)

【出願番号】特願平 10-518305

【国際特許分類第 7 版】

C 0 9 J 4/02

C 0 8 F 2/00

C 0 8 F 2/44

C 0 8 F 291/00

C 0 9 J 133/06

【F I】

C 0 9 J 4/02

C 0 8 F 2/00 A

C 0 8 F 2/44 C

C 0 8 F 291/00

C 0 9 J 133/06

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 2 月 24 日 (2004.2.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成16年2月24日

特許庁長官 今 井 康 夫 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第518305号

2. 補正をする者

名称 ミネソタ マイニング アンド マニュファクチャリング
カンパニー

3. 代 理 人

住所 〒105-8423 東京都港区虎ノ門三丁目5番1号 虎ノ門37森ビル
青和特許法律事務所 電話 03-5470-1900

氏名 弁理士 (7751) 石 田 敬



4. 補正対象書類名

明細書及び請求の範囲

5. 補正対象項目名

明細書、発明の名称及び請求の範囲

6. 補正の内容

(1) 明細書第1ページ上から2行における発明の名称「安定化された接着剤微小球」を、『安定化された接着剤微小球組成物および微小球を調整するための重合法』に補正します。

(2) 明細書第7ページ上から8行における「微少球の」を、『微小球100重量部あたり』に補正します。

(3) 明細書第9ページ下から4行、および第10ページ下から9行における「0.1」を、各々『重合性モノマ出発原料100重量部あたり0.1』に補正します。

(4) 明細書第12ページ下から2行および第13ページ上から7行における「



アソアミル」を、各々『イソアミル』に補正します。

(5) 請求の範囲を別紙の通りに補正します。

7. 添付書類の目録

請求の範囲

1 通

請求の範囲

1. (a) 少なくとも1種の $C_4 \sim C_{14}$ アルキル(メタ)アクリレートモノマと場合により少なくとも1種のコモノマとを含有する重合性出発原料を含んでなる反応体の反応生成物である複数の高分子エラストマ微小球と、

(b) 該微小球100重量部あたり0.1~3重量部の量の少なくとも1種のビニル不飽和添加剤(この添加剤はイオン性部分と疎水性部分の両方を有し、しかも少なくとも5個かつ40個以下の炭素原子を含有する)と、

(c) 場合により、該微小球100重量部あたり0.1~3重量部の量の高分子安定剤と、

(d) 該微小球100重量部あたり5重量部以下の量の界面活性剤と、

(e) 場合により、30~98%の範囲のn-ヘプタン可溶分を有する微小球を提供するのに十分な量の改質剤(この改質剤は、連鎖移動剤、粘着付与剤及び溶剤のうちの少なくとも1種である)と、

(f) 該重合性モノマ出発原料100重量部あたり0.1~2重量部の範囲の量で存在する重合反応を触媒するのに有効な量の開始剤と、
を含んでなる安定化された微小球接着剤組成物。

2. 前記ビニル不飽和添加剤がスチレンスルホン酸塩である請求項1記載の安定化された微小球接着剤組成物。

3. 前記コモノマが、イオン性モノマ、非極性モノマ、極性モノマ、またはこれらの混合物を含む請求項1記載の安定化された微小球接着剤組成物。

4. コモノマが存在する場合、前記アルキル(メタ)アクリレートモノマと前記コモノマとの相対重量が99.5/0.5~75/25の範囲である請求項1記載の安定化された微小球接着剤組成物。

5. 前記改質剤が可塑剤である請求項1記載の安定化された微小球接着剤組成物。

6. (a) (i) 少なくとも1種の $C_4 \sim C_{14}$ アルキル(メタ)アクリレートモノマおよび場合により少なくとも1種のコモノマと、

ii) 重合性モノマ出発原料100重量部あたり0.1~3重量部の量の少なくとも1種のビニル不飽和添加剤(この添加剤はイオン性部分と疎水性部分の両方を有し、

しかも少なくとも5個かつ40個以下の炭素原子を含有する)と、

(iii) 重合性モノマ出発原料100重量部あたり0.1~2重量部の範囲の量で存在する重合性モノマ出発原料用開始剤と、

(iv) 場合により、重合性モノマ出発原料100重量部あたり0.1~3重量部の範囲の量の高分子安定剤と、

(v) 重合性モノマ100重量部あたり5重量部以下の量の界面活性剤と、

(vi) 水中油型懸濁液を形成するための水と、

(vii) 場合により、30~98%の範囲のn-ヘプタン可溶分を提供するのに十分な量の改質剤と、

を含有する重合性モノマ出発原料を含んでなる混合物を攪拌もしくは振盪するステップと、

(b) 該(メタ)アクリレートモノマおよび存在する場合は該コモノマを重合して微小球を提供するステップと、

を含む、高分子エラストマ微小球を調製するための一段階重合法。

7. (a) (i) 少なくとも1種の $C_4 \sim C_{14}$ アルキル(メタ)アクリレートモノマと、

(ii) 重合性モノマ出発原料100重量部あたり0.1~3重量部の少なくとも1種のビニル不飽和添加剤(この添加剤はイオン性部分と疎水性部分の両方を有し、しかも少なくとも5個かつ40個以下の炭素原子を含有する)と、

(iii) 重合性モノマ出発原料100重量部あたり0.1~2重量部の範囲の量で存在するモノマ用開始剤と、

(iv) 場合により、重合性モノマ出発原料100重量部あたり0.1~3重量部の範囲の量の高分子安定剤と、

(v) 重合性モノマ出発原料100重量部あたり5重量部以下の量の界面活性剤と、

(vi) 場合により、30~98%の範囲のn-ヘプタン可溶分を提供するのに十分な量の改質剤と、

(vii) 水中油型懸濁液を形成するための水と、

を含有する混合物を攪拌もしくは振盪するステップと、

(b) 重合性モノマ出発原料を少なくとも部分的に重合するステップと、

- (c) 少なくとも1種のモノマを懸濁液に添加するステップと、
 - (d) 重合性モノマ出発原料の重合を継続して微小球を提供するステップと、
- を含む、高分子エラストマ微小球を調製するための二段階重合法。